

生成AIって何？

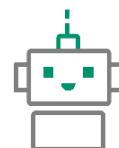
『そもそも生成AIって何？』といったお声をよく伺うようになりました。そこで今月は、生成AIの基本から、実際の業務での活用事例、生成AIに指示する際のポイントまで、分かりやすくご紹介します！

生成AIとは？

生成AI（Generative AI）とは、大量のデータからパターンを学習し、利用者が入力した指示や質問に基づいて、文章・画像・音楽・動画・プログラムコードなど新たなコンテンツを自動で生成する人工知能の総称です。



従来のAIと生成AIは何が違うのですか？



従来のAIは、与えられた情報をもとに「分類」「予測」「最適化」などを行い、作業の自動化などを主な役割としていました。

一方で、生成AIは新しいコンテンツを創り出すことを目的としており、ユーザーが自然な言葉で指示や質問を行い、そのやり取りを通じて結果を柔軟に調整できます。



従来のAI



生成AI

分類・予測・最適化で作業を自動化

例：画像に対し、「これはネコの写真です」と判別する。

新しいコンテンツを創造

例：「ネコのイラストを生成してください」などのリクエストに応える。

生成AIを使うメリットってなに？

生成AIは単なる新技術にとどまらず、業務の効率化や成果向上に直結する高い実用性を備えており、業務活用においても様々なメリットがあります！

業務効率化とコスト削減

生成AIは資料作成、データ分析、メール文案作成などの作業を短時間で行えるため、社員の作業時間を削減できます。その結果、人件費や外注費の削減にもつながります。

品質の均一化とスピード向上

人によるばらつきを減らし、一定品質の成果物を安定的に提供できます。また、修正や改訂も迅速に行えるため、納期短縮が可能になります。

創造性の強化と新たな価値創出

アイデアの提案や構成案の提示など、従来の発想を補完・拡張できます。これにより、新製品やサービスの開発、マーケティング施策などの幅が広がります。

ナレッジ活用とスキル補完

専門外の分野でも必要な情報を瞬時に取得でき、社員の知識不足を補えます。教育や研修の効率化にもつながり、組織全体の知的基盤を強化できます。

生成AIサービスを導入した企業の事例を紹介！

Microsoft 365 が提供する生成AIサービス「Copilot」を実際に導入された企業の事例を簡単にご紹介します。

●本事例のお客様情報



| | |
|------|---------------|
| 会社名 | 株式会社 九州緑化産業 様 |
| 業種 | 建設業 |
| 従業員数 | 53名 |

生成AIは、業務においても
もう身近な存在なのですね。



導入前の課題



- ・社会の変化に対応しながら、会社の将来を担う人材を育成するために、
この会社で働きたいと思われる環境を整備したい。
- ・情報の収集や取りまとめ、報告書の作成など**時間・手間がかかる業務を効率化したい。**

導入後の効果



- ・Microsoft 365 Copilotの活用により、働き方改革を見据えた**業務効率化への取り組みを始めるきっかけを得られた。**
- ・半日～1日かかっていた**報告書作成業務を約1時間で完了した事例**が出てきた。
- ・メール返信や定型文などの作成にかかる時間を、**最大で従来の5分の1程度に短縮できるようになった。**

お客様の声



- ・自分の考えを文章として整理する際に、**これほど便利なツールはない。業種や職種を問わず、全員まずは使ってみるとよい**のではと思った。
- ・1回ごとの効率化は小さくても、**積み重ねると大きな効果になる**と思った。
ただ、プロンプトによって回答の質が左右されるところがあり、**条件を追加するなどの工夫は必要だと**感じている。

本日紹介した事例の詳細は
こちら！

株式会社九州緑化産業 様

ひらめき次第で自社の業務にいくらでも適用できるCopilot。働きやすい環境を整えるため、新しい技術を積極的に活用。

他のCopilot活用事例は
こちら！

株式会社ボマト・プロ 様

クリエイティブ業務に集中できる環境を目指し、Copilotを全社導入。様々なシーンで活用するとともに、より効果的な活用法を模索。

代表的な生成AIサービスを紹介！

現在、生成AIサービスは様々な会社によって提供されています。ここでは、国内外で高い評価と利用実績を誇る主要な生成AIサービスをご紹介します！それぞれの特徴を理解することで、自社の業務に取り入れる生成AIサービスを検討する一助としてください。

文章生成AI

● ChatGPT (OpenAI, Inc./米国)

世界的に利用される汎用性の高い生成AI。自然な会話形式で、文章作成、要約、翻訳など多様な業務を支援します。

● Microsoft Copilot (Microsoft Corporation/米国)

Office製品と連携し、資料作成やデータ分析を効率化する業務支援型AI。日常業務の生産性向上に直結します。

● Gemini (Google LLC/米国)

Googleの検索技術とAIを融合し、文章・画像・音声など複数形式を組み合わせた高度な応答が可能です。

● Claude (Anthropic PBC/米国)

長文や複雑な情報整理を得意とし、安全性や倫理面に配慮した設計が特徴です。

画像生成AI

● Midjourney (Midjourney, Inc./米国)

芸術性とデザイン性に優れた高品質な画像を生成。広告やSNSで映えるビジュアル制作に活用できます。

● Adobe Firefly (Adobe Inc./米国)

PhotoshopやIllustratorと連携し、商用利用可能な画像素材やエフェクトを迅速に作成できます。

実際にAIに指示する際のポイント！

生成AIは、入力する指示（プロンプト）の明確さによって成果物の質が大きく変わります。以下のポイントを意識することで、より精度の高い出力が得られます！

1. 目的を明示する

何のために生成するかを具体的に示すと、AIが意図に沿った成果物を作成しやすくなります。

（例：「営業メール用の短文として作成」）

2. 条件や制約を指定する

文字数、専門用語の使用可否、対象読者などを指定すると、実務に沿った内容になります。

（例：「200文字以内」「専門用語は使用しない」）

3. 出力形式を指定する

箇条書きや表形式など、使いやすい形式を指定すると、作業効率が上がります。

（例：「箇条書き形式」「表形式」）

4. 段階的なやり取りを行う

一度に完璧な成果物を求めるのではなく、初回生成後に追加修正を指示することで、意図に合った出力が得られます。（例：初回生成後に「この部分を短くしてください」と指示）

今回は生成AIについてご紹介しました。すでに生成AIは身近な存在になっています。

ぜひ日々の業務での活用を検討してみてください！

（2025年10月発行月次レポート「ITトピックス」の内容を一部修正して掲載しております。）